

インフォメイト

Vol.21
February
2019

【特集】

医師の働き方改革について

乾癬について

リハビリテーション科のご紹介

ホームページをリニューアルしました

総合防災訓練を実施しました

「がんカフェ はなこ」のご紹介



ごしたいものです。さて、国は長時間労働による様々な問題を山積していることから「働き方改革」を提唱し、勤務形態の多様化や残業時間の制限を決めるなど対策を打ち出しています。しかしながら、医療従事者、とくに病院などの勤務医の労働に関しては、今年度中に業務内容を精査、検討し、一定程度の方針を決め、5年間かけて最終的な結論を出すことになりました。

その理由としては、医師の仕事の内容は、診療に関する業務（診察、検査、治療、手術、カルテ記載、会議など）、日進月歩の医療の進歩に適切に対応するための論文閲覧や学会参加、論文執筆などの自己研鑽とに大きく2つに分けられます。しかしながら、両者の境目は必ずしも明確ではありません。例えば難しい治療や手術の見学や、経験した症例を論文にま



医師の働き方改革について

公立昭和病院 院長 上西 紀夫

明けておめでとうございます。平成もあと数か月を残すばかりになり、新しい年号がどうなるのか待ち遠しい年明けになりませんが、今年もつつがなく過

とめるなど今後の診療や病院の運営、ひいては患者さんのために活動したことを労働とするのか、それとも自己研鑽とするのか判断が難しいのが現状です。

また、医療の必要性は24時間365日待ったなしであり、救急医療のように予想のつかないことも少なくありません。さらに「応召義務」といって、特別な理由がない限り診療依頼を断れないという倫理規定があります。そこで、多くの勤務医は時間外や長時間働くことになり、また患者さんや家族の皆さんへの説明を夜や土日、祝祭日に行わざるを得ないこともあります。こうなるとますます長時間労働となり様々な問題が出てきます。

とは言っても、これまで多くの医師、とくにベテランと言われる医師は、労働者という概念はなく、自分の勉強のため患者さんのため、時には重症患者さんのため何日も病院に泊りがけで診療することをいとわず、それを当然と受け止めていましたし、また市民の皆様も同様であったのではないかと思います。しかし、時代は大きく変わりつつあります。

そこで、国はタスクシフティング、タスクシェアリングなど業務の分担や、当直明けの休日取得などを提唱していますが、それには多くの数の医師が必要になります。今、医師の必要数については様々な意見がありますが、確かに人口当たりの医師の数

中面につづく

地域医療連携と総合防災訓練だより!

いよいよ、平成最後の年を迎えました。公立昭和病院の「しょうわ」という響きにも、歴史と重みを感じ、職員としては、身の引き締まる思いになります。

さて、今回は、すでに掲載されています、平成30年12月16日に行われた『総合防災訓練』について、地域医療連携の視点から、紹介したいと思います。

地域医療連携と総合防災訓練?と、疑問に思うかもしれません。しかし、地震などの広域災害が発生した場合、都内には当院をはじめ、82の災害拠点病院が指定されており、地域医療機関との連携で広域災害に対処することになっていきます。

例えば、18時発災の多摩直下型地震では、都の被害想定で、死者4,700名、負傷者10万1千100名とされています。当然、当院においても、相当数のけが人が来院することが考えられます。その場合、限られた状況の中で最善の医療活動を行わなければなりません。当院の職員や診療材料だけでは対応しきれない可能性も考えられます。そこで、地域医療機関との連携が、重要になってくることとなります。

今回の訓練では、そのような連携も実施されています。具体的には、震災時に当院のロータリーや院内に来院した患者さんの傷病程度を振り分ける、トリアージエリアが設けられますが、そこに3師会（小平市医師会、小平市歯科医師会、小平市薬剤師会）の活動するテントが設置されます。発災直後は当院の職員が対応しますが、



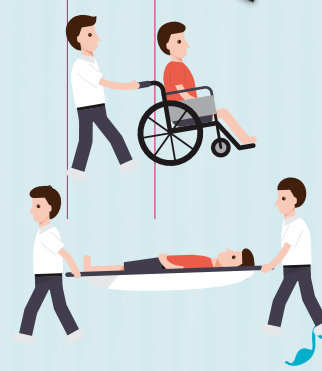
医師会の先生方(左側2名)



薬剤師会スタッフ(青いベスト着用)

このように、災害拠点病院としての機能の一部は、地域の医療関係者の協力が不可欠であり、日頃から、地域医療機関との連携を推進することは、有事の際にも活かされることとなります。地域医療連携って、大切ですね!

ほどなく、医師会などのスタッフが応援に駆け付けてくれますので、軽症者の診察を担当してもらうことになっていきます。このことにより、当院の職員を重症者の対応などに配置することができるようになります。訓練では引き続きも迅速に行われ、寒い中、地域の医師やスタッフが丁寧に患者対応をしてくださり、薬剤師会のスタッフも小平市の備蓄薬品を持ち込み、手際よく作業をしてくださっていました。また、多忙にもかかわらず、小平市の奥村医師会長をはじめ、多くの方が見学にいられていました。これらは、日頃から顔と顔を合わせた連携が行われ、相互の信頼関係があるからこそ、成せるのではないのでしょうか。



《公立昭和病院の理念と方針》

【理念】

一人ひとりの命と健康を守り、医療の質の向上に努め、熱意と誇りを持って地域社会に貢献することを目指します

【方針】

- 1 地域医療支援病院として地域連携を推進します
- 2 科学的根拠に基づいた医療を提供します
- 3 急性期病院として高度専門医療、救急医療を実践します
- 4 がん拠点病院としてがんの予防から治療までを担います
- 5 信頼される優れた医療人を育成します
- 6 健全な病院経営に努めます

当院は、東京都多摩地域の小金井市、小平市、東村山市、東久留米市、清瀬市、東大和市、西東京市の7市で構成されている昭和病院企業団により運営されています。標榜診療科は全31科。休日・夜間救急医療をはじめ、高度・専門医療、予防医学的事業、地域医療センターとして高い機能を発揮して、地域の医療需要と信頼に答えています。

Access



公立昭和病院

〒187-8510 東京都小平市花小金井8-1-1
tel.042-461-0052 fax.042-464-7912
<http://www.kouritu-showa.jp/>

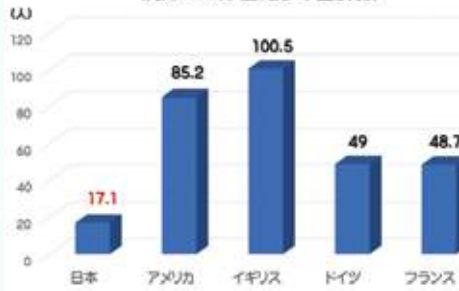


日本医療機能評価機構
認定番号 JC2151号

は欧米諸国と大きな差はありません。しかしながら、病床当たりの医師の数は図のごとく大きな差があります。逆に言えば、日本は病院のベッド数が多すぎるとも言えます。国は現在、病床数を減らすべく様々な施策を行っていますが、高齢者、超高齢者が増加する中でこの問題をスムーズに解決することは大変困難ではないかと思えます。(なお、労働者とは所属長(上司)からの業務命令に基づいて働く者で、基本的には勤務医が該当し、診療所の院長は事業主で労働者に該当しないとされています。)

ような医師の勤務の現状を知っていただき、私たち医療側も適切な労働環境の下で安心、安全な医療の提供に努めたいと考えており、ますので、ご理解、ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

病床100床当たりの医師数



かんせん 乾癬について

皮膚科では、皮膚に関係する様々な疾患を扱っています。乾癬や接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎といった炎症性疾患、蜂窩織炎、带状疱疹といった感染症、ほくろ、あざなどの腫瘍性疾患、薬疹などの外因性疾患、色素異常症など多岐にわたります。今回はその中で、乾癬について説明させていただきます。

乾癬は、皮膚が赤く盛り上がり、表面にフケのようなかさぶた(鱗屑)といいますが白くつきます。良くなったり悪くなったりという状態を繰り返す慢性的な疾患です。正常な皮膚の細胞は通常、約1か月かけて入れ替わります。しかしながら、乾癬の患者さんの皮膚では、その新陳代謝のサイクルが1週間ほどになってしまいうために、皮膚が厚くなってしまいます。

乾癬の根本的な原因は解明されていませんが、免疫機能の異常が関わっていることがわかってきました。統計にもよりますが、国内での患者さんの人数は、40〜50万人ともいわれています。5つの型のうち、なかでも尋常性乾癬と言われるものが多く、乾癬全体の約9割を占めています。関節の痛みを伴う型もあります。

治療ですが、完全に治るとは申し上げられませんが、症状を抑える治療を行っていただくことで、軽快した状態を長く保つことができるようになってきました。治療の基本としては、炎症を抑えるステロイドや皮膚の増殖を抑えるビタミンD3の塗り薬が中心です。そのほかには、免疫を抑える飲み薬など、選択肢が増えてきました。そして、光線治療という紫外線を当てて治療する方法も有効であり、

皮膚科部長 青笹尚彦

古くから行なわれてきました。ここ数年では、生物学的製剤(乾癬の病気のメカニズムにかかわる分子の機能を抑える抗体を使った注射薬)が導入され、現在7種類あります。



全身型



局所型

写真は光線治療の照射器です。これらを用いて、中波長の紫外線を照射するナローバンドUVB療法を行います。広範囲に皮疹があれば全身型(写真右)、局所のみであれば局所型(写真左)を用います。頻回の通院が必要なのですが、内臓への副作用がないために、高齢の方でもお勧めしやすくなっています。

治療については、患者さんの乾癬の種類や症状、背景、他にお持ちの病氣、ライフスタイルなどによっても、適切な治療方法が変わりますのでご相談ください。

ホームページをリニューアルしました

総務課

昨年12月1日より、当院ホームページをリニューアルしましたので、お知らせいたします。

今回のリニューアルでは、ご利用者の方に、より見やすく、また、情報を分かりやすくお伝えできるホームページとなるようにデザインや構成を改善いたしました。



スマートフォン・携帯電話お持ちの方はこちらからご覧いただけます↓



また、パソコンの他にスマートフォンやタブレットからアクセスした際にもより使いやすく快適にご利用いただけるホームページに作成しております。これまで以上に、使いやすいサイトを目指し、内容を充実して参りますので今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。



リハビリテーション科のご紹介

リハビリテーション科

リハビリテーション(以下、リハ)科では、高度・急性期医療を受けられた、患者さんの生活を取り戻すため、入院されている方を中心にリハを提供することを業務としています。

私たちは、患者さんが入院により、体力や筋力低下を起こさないよう、医師、看護師、療法士等の回診に同行し、カンファレンス(医師・看護師・社会福祉士・栄養士・薬剤師などの参加で行う治療方針を検討する会議)に参加するなど、情報を共有しながら、入院早期よりリハが必要と思われる患者さんに介入しています。

また、リハ以外の業務では、院内他部署からの依頼で患者の移動方法などをアドバイスする機会があり、最近では、院外の保健・介護施設より、講演依頼を受けるようになりました。

平成29年度に「ロコモティブシンドローム」について、地域市民へ講義と実技(予防のための運動)を行う機会をいただき、リハ医より、ロコモティブシンドロームについて説明し、理学療法士(以下、PT)より、ロコモティブシンドローム予防のための運動の指導を行いました。大変ご好評いただき、昨年12月にも同内容で講演を行っています。今年も3月に介護予防事業に関連して「フレイル予防」について、講演と実技を行う予定です。詳細に



総合防災訓練を実施しました

業務課・施設係

当院は、地域の高度・急性期医療センターとしての機能や役割を果たすため、国や東京都からさまざまな指定や承認を受け、地域医療支援病院や救命救急センターなど、重要な機能を担っています。

大規模災害時にそれらの機能を継続させるため、当院では災害マニュアルや事業継続計画(BCP)等を作成し、災害に備えています。また、マニュアル等を実践するために当院では年に2回(総合防災訓練を実施しており、本年度も第1回目の訓練を平成30年12月16日(日)に実施しました。この訓練では午前9時に大地震が発生、同時に火災が発生したという想定で訓練を開始、自衛消防隊による消火活動、病院災害対策本部の設置からマニュアルに基づいたトリアージエリアや診療エリアの立上げ、医療救護活動訓練を行いました。



防災訓練の様子



「がんカフェ はなこ」のご紹介

がん相談支援センター

当院の「がんサロン」「がんカフェはなこ」は2014年9月に第1回を開催しています。当初は1年に3回の開催でしたが、現在では月1回の開催となっています。

「がんカフェはなこ」は、がんサバイバー(がん治療の体験者)同士が安心して体験を話せる場、共有できる場をコンセプトとして回数を重ねてきました。がんの治療を体験し、辛かったことや家族への思い、日常生活の工夫や心の持ちようなど、体験者だからこそ分かり合える説得力のある語りでもあります。参加したサバイバーの方からは、「悩んでいるのは自分だけではなかった。」「今日は来て良かった。」「これから頑張れそうなお気持ちになった。」「という言葉も多く聞きます。また、あるサバイバーの方からは、「自分の体験を語ることが、今、頑張っている仲間たちの力になると思っている。そして、頑張った仲間たちのことを自分が語り続けていくことが、このがんカフェにとって大切な事だ」と語っていました。



「がんカフェはなこ」の様子

■「がんカフェはなこ」月1回開催
開催のお知らせはホームページまたは院内掲示板にあるポスターをご覧ください
■お問い合わせ先
がん相談直通電話
042-466-1802(平日9時~16時まで)